

鍵用及びドアノブ用自助具の製作

1 相談内容

相談者は、進行性の病気のためなのか、障害のためなのか、徐々に筋力が落ちてきているとのことでした。そのため、自宅の鍵を鍵穴にさして回すことが難しくなってきたとの相談を受けました。鍵の開け閉めやドア開閉が自分でできないと不安で外出することもできないとのことでした。そこで、自分で楽に鍵を回してドアの開閉もできるようにしたいと要望されました。

2 利用者プロフィール

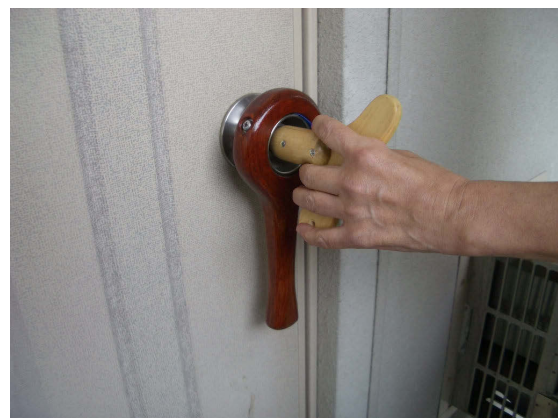
50代女性、運動ニューロンの障害によって両上肢機能障害のある方で身体障害者手帳2級です。右手はあまり動かせず、主に左手で鍵を回したり様々なことをされています。左腕を上げることも難しく、胸あたりまでは右手を添えることで上げることができます。現在、賃貸住宅に一人で暮らしており、家事援助でヘルパーを利用しています。

3 対応

将来的には、ドアを改造して電動で自動開閉するものが良いと思っているが、賃貸住宅のため、それは難しいとのことでした。鍵を持つ面積が小さく指でつまむことも難いため、その面積を大きくし、本人が持ちやすい鍵用の自助具と、ドアを開けやすくするためのドアノブを回す自助具を製作することにしました。本人は左手で鍵を鍵穴にさし、左手に右手を添えながら、左に回すと開錠し、右に回すと閉錠します。それからドアノブ用自助具の長い柄を持ってドアを引くことができます。なお、これまでは、そのままの状態では鍵を鍵穴へさすことができたのですが、障害の進行によって腕自体がドアノブの位置まで上がらなくなったため、現在は子供用の踏み台を利用し、その台の上に乗ってから鍵を回すように自分で工夫されています。



鍵用自助具



鍵を回す様子(ドアノブ用自助具あり)

4 結果

本人は、問題なく使用することができました。鍵操作やドアを開ける際の不安がなくなり、外出も気楽にできるとうれしそうに話してくださいました。